



懸け橋

練馬区立石神井西中学校
学校だより 第10号
平成28年2月24日
校長 松丸 晴美

「心の痛みを和らげる薬」

例年より早く開花し始めた梅の花の馥郁とした香りが漂う頃となりました。

今年度も残りひと月余りとなり、学校では生徒・教職員による1年間の教育活動に対する評価を始めています。保護者や地域関係者の皆様からのアンケートを参考にし、課題については改善方法を検討しながら次年度に向けた準備を進めています。学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。結果については3月の学校だよりでお知らせいたします。



インフルエンザの流行がまだまだ続いています。幸い本校では数人の欠席者に留まっています。インフルエンザは高熱に加え、強い関節や筋肉の痛みが伴います。これらの身体的な痛みは、特効薬を服用すれば緩和されます。医薬の進歩はめざましく、頭痛、筋肉痛、胃痛・・・などちょっとした体の痛みにきく市販の薬はたくさん出回っており、私たちは気軽に使用できます。では、心の痛みを和らげてくれる薬はあるのでしょうか？先日、スキー移動教室の最中に体調を崩した生徒の感想文を読み、「確かに、心の痛みを和らげる薬はある」と実感しました。

僕が辛そうにしていると、「大丈夫？」とか「熱測ったら？」とか心配してくれてつらい反面、とてもうれしかったです。
～中略～班会議を素早く終わらせてくれたり、僕の布団を一番に敷いて寝かせてくれたり、他にも数えきれないくらい色々な親切をしてくれました。

3日目の朝、家に帰ることになりましたが、皆が僕にしてくれたことを思い出せば、全然辛くありませんでした。とても楽しいスキー教室でした。これからたった一つの発言や言葉で友達を傷つけたり、失ったりしないようにしていきたい。

悲しんだり、落ち込んだりして心を痛めている時に受けた、こんな素敵な言葉掛けや気遣いは、心の痛みの特効薬とも言えるのではないのでしょうか？

子ども同士だけではなく、大人と子どもの接し方にも「良薬」になる言葉や行為があるのではないかと思います。

以前、アメリカの教育家ドロシー・ロー・ノルト博士の著書「10代の子どもが育つ魔法の言葉」という本を読んだことがあります。

本の中には、「否定されると子どもは苦しむ。言葉の使い方に気をつける。体の話題は慎重に。友達の色づれを知る。悪いことは悪いと言う。無視ほど残酷なことはない。10代になっても親を必要としている。子供を拒否しない」など、子どもとの接し方になるほどと思える記述がたくさん掲載されていました。思春期にある中学生時代は、親の期待どおりにいかないことが結構あります。アメリカと日本の教育や子育ての風土の違いはありますが、この本を読んで、ちょっと深呼吸することができました。機会があればぜひ一読下さい。

元オリンピック選手有森裕子さんの「自分で自分をほめてあげたい」という名言がありますが、自分自身を奮い立たせてくれような、自信を持たせてくれるような、そんな特効薬となる言葉を持ちたいものです。



(スキー開校式の様子)

一人一人がみんなのために動いた

第2学年 スキー移動教室

スキー移動教室担当 2学年 教諭 百田 果

1月30日(土)～2月2日(火)、3泊4日のスキー移動教室でベルデ軽井沢へ行ってきました。出発前に雪の予報があり、出発ができるのかという心配を抱えながら迎えた当日でしたが、予報は雨に変わり無事に出発することができました。

スキー実習では全日天候に恵まれ、生徒たちは実習を思う存分に楽しんでいました。インストラクターの方の話もしっかりと聞き、経験のある生徒達はボーゲンやパラレルターンの技術を磨き、初心者でスタートした生徒たちもみるみる上達し、全員が滑れるようになりました。開始前や初日こそ不安で消極的な気持ちの生徒もいましたが、終わったときには「もっと滑りたかった」、「もう一度滑りたかった」という声を多く聞きました。見学者もほとんどなく、前向きに取り組む姿は素晴らしかったです。

宿舎では、仲間とともに過ごすことで気持ちが高ぶってしまい、注意される場面もありましたが、毎日の実行委員会議や各係会議、朝礼などを受け、反省点は翌日にきちんと生かす様子が多々見られました。それは、実行委員や室長、各係の生徒が自分の役割をしっかり果たそうと心がけてくれたからです。一人一人がこの行事を良いものにしようと自覚し、動いたからこそその成果だと嬉しく思っています。集団生活の中での過ごし方について宿泊学習を通じてよく見つめ、考えることができました。生徒の作文からは、「学んだことを日常生活に生かしていきたい」という感想が多く見られました。この言葉をぜひ実行し、3年生になる自覚と責任感を強めていってほしいです。最後になりますが、保護者の方のご協力に感謝します。これからもよろしくお願ひします。



(写真：上段スキー実習中の様子、下段左から朝礼、朝食、レクのダンス発表会の様子)

1 月 20 日水曜日、1 年生では校外学習を実施しました。5～6 人の班別行動で、浅草寺周辺、国立科学博物館、江戸東京博物館を巡り、それぞれの場所で様々な学習を行いました。

浅草寺周辺は、平日にもかかわらず、世界中からの観光客でたいへん混み合っていました。事前に班で 1 つずつ質問を準備し、出身国や名前など、インタビューをしました。何人にもインタビューした班もあり、全部で 49 人、19 カ国の方に話しかけました。ほとんどの方々が笑顔で快く答えてくれ、さいごに一緒に写真撮影をしました。貴重な体験をすることができたと思います。また、浅草寺、雷門、仲見世、五重塔、宝蔵門、浅草神社などそれぞれの分担で写真などを撮り、仲見世では煎餅、揚げまんじゅう、人形焼き、メロンパンなどのおやつを食べました。



浅草寺でインタビュー。デンマークの方でした。

国立科学博物館と江戸東京博物館では、一人一人がそれぞれ 20～30 種類の中から選んだワークシートを手に見学しました。自分のものだけでなく、班員全員が協力して答えのある展示をさがしてまわりました。



国立科学博物館。化石の骨を観察。

朝から山手線が遅れたこともあったり、道に迷ったりするなどして、計画よりも帰りがだいぶ遅れた班もありましたが、大きな事故もなく皆で協力して無事に武蔵関に到着しました。帰ってきたあとのアンケートでは、「皆でまとまって学習できた」「皆がきまりを守れた」「電車内で席をゆずった」などのよい点と共に、「男女別々に行動してしまった」「時間の把握ができなかった」「電車内でうるさくしてしまった」など、次への課題も明らかになりました。来年度、再来年度と、校外での行事がありますので、反省をいかしてさらにより行事してほしいと思っ

ています。

帰ってきてからは、浅草、江戸東京博物館、国立科学博物館で見学したことの中から 1 つを選び、図書館やインターネットでさらに深く調べて新聞を作り、皆の前でわかったことなどを発表します。また、外国人へのインタビューは、尋ねた内容を、写真と共に 2 月 13 日の展示会で掲示発表しました。複数の外国人にインタビューした班もあり、全部で 49 人の方々の名前と国籍を世界地図の中に書きました。



江戸東京博物館。テーマは江戸の四季と盛り場

【パラバレーボール講演会を行いました】

オリンピック・パラリンピック推進委員長 主幹教諭 三輪 辰也



平成28年2月16日(火)5・6校時本校体育館において1年生、2年生及び保護者の皆様を対象にパラバレーボール講習会が行われました。本講はオリンピック・パラリンピック推進校としていろいろな取り組みを実施しております。その一環として今回の講演会を実施いたしました。パラバレーボール協会の会長をされている真野様及び全日本のメンバーをお迎えしての実施となりました。

「シットィングバレーボール」といって座って行うバレーボールで、コートも通常のバレーボールコートよりも小さく、座ったままで動ける範囲の中で行われものでした。本校バレーボール部1年生チーム、2年生チーム、及びヤング教員チームが参加して実技、ゲームを行いました。

はじめの講演の中で、骨肉腫という病にかかって脚を切断された話や交通事故で切断を余儀なくされたなど、生々しい話の中で、明るく前向きな気持ちを持てるようになるまでの苦悩や思いをお話しくださり、生徒たちも真剣に聞き入っておりました。障害のある方々の意欲的で前向きな姿勢に元気づけられた思いがいたしました。

実技指導では、まずコート上での動き方を練習しました。手を使って動くわけですが、進行方向によって足の向きを変えて異動するという練習でした。なかなかハードな練習で選手たちの素早い動きには感心させられました。次に生徒たちとのゲームを行い、1年生チームとの試合では、全日本のメンバーですから、余裕綽々で得点を重ねていました。2年生チームは少し健闘しましたが、やはり余裕でプレーをされていました。最後のヤング教員チームはかなり善戦をしましたが惜敗でした。選手の皆さんのボーへの素早い動きには、場内から惜しめない拍手がわき上がっていました。

最後にシットィングバレーボールは障害のない健全な者もできるスポーツなので、障害のある方との交流にはうってつけのスポーツであることをお話しなっていました。2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、是非シットィングバレーボールを応援してくださいと締めくくっていました。西中においてオリンピック・パラリンピックを推進していく中で、このようなスポーツと出会えたことは、生徒にとっても幅広い活動に繋がっていくのではないかと感じました。



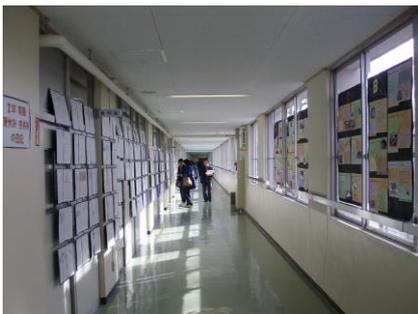
【すばらしい作品をたくさん展示しました 展示発表会】

文化行事委員会担当 主任教諭 志村美智子

2月13日に展示発表会を開催しました。西校舎の1階から3階までの廊下や特別教室を会場に、生徒たちの各教科の作品を展示しました。前日に展示準備をし、当日は1校時に1年生、2校時に2年生、3校時に3年生と学年別で見学をしました。

前日の準備では、係の生徒たちが一生懸命働き、気持ち良く会場作りに貢献していました。その甲斐あって、見学しやすい美しい飾り付けになりました。当日の見学では、初めての試みなのできちんと見学できるか心配でしたが、全学年とも楽しそうに真面目に見学をしていました。私は1年生と見学をしたのですが、1年生は純粋に先輩たちの作品を見て感動していました。他学年も同じだったようです。先輩や後輩、そして友達の学習成果を見て、何かしらの刺激や参考になればと思います。生徒は、生徒同士で刺激し合って伸びることが多いです。先輩の作品を見てあこがれ、友達の作品を見て参考にし、人に見られることでより一層上達します。見学をしている生徒から「時間が足りない！もっと見学したい！」との声を多く聞き、嬉しく思いました。来年度は、どんな作品を見せてくれるのか楽しみです。

当日、多くの保護者や地域の方々が来校してくださいました。生徒たちの励みになったと思います。本当にありがとうございました。



【図書室より】

学校図書館管理員 茂田井 操

石神井西中学校の図書室にきて10ヶ月が過ぎました。西中は、どちらかと言えば運動系の部活動が盛んな学校なので、お昼休みも読書をする生徒より、校庭で体を動かす生徒の方が多かったです。でも、せっかく図書館管理員として、図書室を任されたからには、少しでも多くの生徒に図書室にきて欲しいと思い、図書室の整備、選書、掲示物、本の紹介、特設コーナーの展示、図書便りなどに力を入れました。また、図書委員会と一緒にイベントにも取り組み、これらの成果が実って、来室者数、貸し出し冊数も増えてきています。1月18日から始まった“本の感謝祭”(図書ビンゴ)は色々なジャンルの読書をすることでビンゴカードのマス目が埋まるので、ゲーム感覚で達成感が得られることもあって参加者が伸びています。(これを機会に読書の幅が広がってくれたら・・・と願っています)図書委員さん達も意欲的で、参加を呼びかけ、景品作りを手伝いに放課後、図書室にきてくれ、カウンターでの仕事も熱心にやっています。

先日、「すすめてもらった本がとてもおもしろかったです。また、教えてください!」と、ある生徒にいわれました。とてもうれしかったです。また、本のリクエストも多くなりました。(リクエストしていただいても、購入できない本もあります)これからも、気軽に利用しやすい図書室を目指して工夫し、イベントの企画もしていきたいと思っています。図書に関する質問、意見など遠慮無くどうぞ!



【書き初め展】

主任教諭 田中 俊文

1月初旬から、国語の授業や冬休みの期間を利用して生徒たちが書き上げた作品を各クラスに掲示し、「校内書き初め展」を実施しました。今年の課題は、1年生は「初春の光」(楷書)・「梅花の香」(行書)、2年生は「春の到来」(楷書)・「紅梅の里」(行書)、3年生は「健全な社会」(楷書)・「成就の喜び」(行書)でした。どれも一筋縄ではいかない難しい課題でしたが、生徒たちは一筆一筆、丁寧に筆を運びながら作品づくりに取り組むことができました。

1月23日(土)・24日(日)に、練馬区立美術館にて開催された「第63回練馬区小中学校連合書き初め展」には、本校からも優秀作品12点を出展しました。流石は、各校の代表作品が一堂に会しただけのことはあって、見応えのある作品ばかりでしたが、本校生徒の作品も決して見劣りしない仕上がりだったのではないかと思います。



「字は体を表す」「書は人なり」という言葉があります。「書にはその人の人柄が表れる」という意味だそうです。もちろん、小さい頃から書に親しんできた生徒もいますし、そうでない生徒もいます。人には得手不得手もありますから、一概にそう言えるとは限りません。しかし、丁寧に書に向き合う姿勢や真摯な気持ちは、得手不得手とは関係なく伝わってくるものです。今回の生徒たちの作品からは、そうした気持ちが強く伝わってきて、とてもうれしく感じました。書写に限らず、そうした姿勢をこれからも大切にして、自分自身を磨いていってほしいと願っています。

石西中 SNS ルール作成を通して

ツイッターやフェイスブック、LINE など、いわゆる SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス：インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと。）の利用が近年急速に普及しました。飲食店や政治家など、実に多くの組織や人々が、このサービスを利用しています。SNSのない世の中は、もう考えられないほどです。一方で、この SNS によるトラブルや事件もあとをたちません。最近では、SNS で少女と男性が知り合い、誘拐に発展するという事件が起きました。このような事件だけではなく、人間関係のトラブルにもつながる SNS。そこで、東京都教育委員会では、生徒が主体となって、SNS の利用に関するルールを作ろうという取り組みを行っています。石神井西中学校でも、生徒会が中心となり、SNS に関するアンケートを行い、それをもとに、SNS によって起こるであろう問題と、その解決策を各クラスで討議しました。そして近日中に、中央委員会で話し合っ て石神井西中学校としての SNS に関するルールを決めていく予定です。ルールを決めることの大切さはもちろんですが、今回のルール作りでは、SNS に関して “意見交換をする” 中で、そこに潜む問題点や、そのような問題に巻き込まれないためにどうすればいいかということを生徒自身で考え、互いの意見を聞くことが、大きな意味をもったと感じます。生徒の議論を通して感じたことは、思っている以上に生徒達は、SNS の危険性を知っているということです。そして、そのような問題に巻き込まれない、また問題を起こさないためにどうすればいいかということも、わかっていました。「これだけわかっているんだ！」と、感心したほどです。だからこそ、定期的にこのような機会を設けて、互いに確認し合いながら利用することが大切だと思いました。

先日、練馬区いじめ防止実践事例報告会に参加してきました。石神井西中学校からは、【い

生徒会担当 教諭 佐藤 由乃
 じめ防止ポスター中学生の部】で3年生の渡邊琴帆さんが入選に輝き、表彰を受けていました。児童生徒が描きたいじめ防止ポスターや、各校のいじめ防止に向けた取り組みを通して感じたことは、とにかく「声をかける」ということが、いじめを防ぐ第一歩であり、最も大切な心がけだということです。先ほどの SNS の討議の中でも、SNS によって起こる問題点として「人間関係が崩れる」という意見が多くありました。そして、それを解決するには、「直接会って話をする。」「コミュニケーションをとる。」という意見がありました。

朝起きて家を出て、学校に来て授業を受けて、放課後の活動を終えて帰宅して……。日常生活の中で、直接会って顔を合わせ、互いの目を見て、声を聞いて話をする。中学生という多感な時期だからこそ、新たな人間関係が作られる時期だからこそ、互いに直接顔を合わせてコミュニケーションをとり、心を通わせる機会をたくさん作ろうと思います。

インターネット・携帯電話の利用に関する アンケート調査の集計結果

【あなたは SNS の機能をもつ端末を持ったり、使ったりしていますか。】

		1年	2年	3年		
はい	男	68	68	77		
	女	85	74	94		
いいえ	男	25	41	29		
	女	13	13	12	合計	
所持率	男	73.11	58.11	67.95	67.95	
	女	86.73	84.09	88.67	86.49	

(単位 : %)



【命と平和～生まれてすぐに原子爆弾をうけて～】

第1学年 教諭 花嶋啓充

2月13日(土)1年生は、本校の体育館において、元東京都内小学校校長の岩谷湊先生をお迎えし、「命と平和」の教育講演会を行いました。岩谷先生は、長崎市に生まれ、生後70日あまりで原子爆弾に被爆されたそうです。その当時の様子を写真やイラストなどで、わかりやすく興味深い講演をして頂きました。

被爆前後の長崎市の様子や、原爆が投下された場所からどの様に被害が広がったのか、家族はどの様に逃げたのか、両親の死と両親への感謝、戦後どの様に生き抜いたのかなど、先生の実体験を通して、命と平和の大切さを学ぶことができました。生徒たちは、「今当たり前前に思っていることはとても幸せなこと」、「相手の痛みを考える思いやりの心をもって生きていきたい」、「戦争はもう二度と繰り返してはいけないこと」などの感想を書いていました。一人一人が真剣に命と平和について考えることができました。



【諸活動の記録】

○新体操

高崎シルクカップ 団体2位

2年B組 新井彩夏

○第65回東京都公立学校美術展覧会

出品 国語科 書写「太陽」

3年C組 野口咲

○吹奏楽部

東京都中学校アンサンブルコンテスト
金賞

第12回 日本管弦打楽器

ソロ・コンテスト

中学生 打楽器部門 金賞

3年D組 石川真子

川越市長賞 3年D組 石川真子

○卓球部

・東京都中学校(区部)新人大会

男子団体 ベスト8

2回戦 石神井西中 3対2 鈴ヶ森中

3回戦 石神井西中 3対2 南中野中

4回戦 石神井西中 3対2 駒場東邦中

5回戦 石神井西中 2対3 足立学園中

・個人戦

2年F組 來生京介 4回戦進出

2年E組 佐藤早和紀 3回戦進出

1年A組 鈴木菜々子 3回戦進出

1年C組 川野帆乃佳 3回戦進出

・練馬区学年別卓球研修大会

2年男子 第2位 2年F組 來生京介

【顧問より】男子団体戦はどの試合も大接戦のすえ、勝利して勝ち進みました。昨年に引き続き区部ベスト8は、大変立派です。春季大会でも頑張ってください。

○バスケットボール部

男子 練馬ジュニア杯1年生交流大会 優勝

最優秀選手賞 1年D組 山崎颯良

女子 練馬ジュニア杯1年生交流大会 優勝

最優秀選手賞 1年A組 大塚羽未

○練馬区いじめ防止ポスターコンクール

入選 3年A組 渡邊琴帆

○練馬区教育委員会児童生徒表彰(水泳)

3年F組 矢崎真衣

○練馬区小中学校連合書き初め展出品

1年A組 野澤真美 保科百花

1年B組 長池唯花 2年A組 川崎紫響

2年D組 横手梨里菜 2年F組 川崎青蘭

3年A組 佐藤茉唯佳 渡邊琴帆

3年B組 蛭名祐一 3年C組 櫻井あかり

3年D組 森島明里 3年F組 熊木夏奈穂